三井松島

2027年３月期 第２四半期
決算説明資料

三井松島ホールディングス株式会社

目次

P3 2027年3月期 第２四半期決算報告

P7 2027年3月期連結業績予想及び配当予想

P9 中期経営計画2030に向けた取り組み状況

P13 直近のトピック

P15 参考資料

2027年3月期 第２四半期決算報告

連結損益計算書

- **売上高**　：前年同期比 **+6.5％ の増収**
- **営業利益**　：前年同期比 **▲2.5％ の減益**
- **純利益**　：前年同期比 **▲1.9％ の減益**

（単位：百万円）

	2026/3期 2Q	2027/3期 2Q	対前期比較 増減額	主な変動要因
売上高	31,902	33,983	+2,081	三生電子や日本カタン等の売上増加
営業利益 (のれん償却前営業利益)※	5,402 (5,990)	5,265 (5,834)	▲137 (▲156)	研究開発費（明光商会）等の増加
経常利益	5,622	5,842	+220	MM Investmentsの受取配当金の増加
親会社株主 中間純利益	**5,204**	**5,104**	**▲99**	特別利益 (前期) 太陽光事業譲渡益+1,240 MM Investments等による投資有価証券売却益+570 (当期) MM Investments等による投資有価証券売却益+1,728

※ のれん償却前営業利益とは、企業買収によって生じるのれんの償却額を除外して算出される営業利益です。

連結セグメント情報

生活消費財　日本ストロー、明光商会、ケイエムテイ、システックキョーワ、MOS
2026年8月加入：山洋、コウナン（収益は3Qより取り込み予定）

産業用製品　CST、三生電子、日本カタン、プラスワンテクノ、ジャパン・チェーン・ホールディングス

金融その他　エム・アール・エフなど
（MM Investmentsの上場株式運用益は下記セグメント利益には含まれておらず、経常利益・特別利益に計上）

（単位：百万円）

	生活消費財			産業用製品			金融その他		
	26/3期 2Q	**27/3期 2Q**	前年差	26/3期 2Q	**27/3期 2Q**	前年差	26/3期 2Q	**27/3期 2Q**	前年差
売上高※	13,360	**13,741**	+381	15,992	**17,763**	+1,770	2,585	**2,510**	▲74
セグメント利益（のれん償却前）	1,513 (1,827)	**1,232 (1,524)**	▲280 (▲303)	2,828 (3,052)	**2,959 (3,187)**	+131 (+135)	1,060 (1,110)	**1,072 (1,122)**	+11 (+11)

※　セグメント間の内部売上高または振替高の調整（▲31百万円）を行っているため、セグメント別合計値と前項の連結損益計算書の売上高は一致しておりません。

連結貸借対照表

貸借対照表

（単位：百万円）

	2026/3月末		2026/9月末			
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	増減額	主な増減要因
流動資産	74,393	58.2	85,160	58.4	+10,767	連結子会社化した山洋、コウナンの保有現預金等による現預金の増加+8,414（※1）
固定資産	53,528	41.8	60,700	41.6	+7,172	MM Investments等の投資有価証券増加（含み益による増加等）+4,570
資産合計	**127,921**	**100.0**	**145,860**	**100.0**	**+17,939**	
流動負債	49,482	38.7	62,283	42.7	+12,800	山洋、コウナンの買収資金調達に伴う短期借入金の増加+11,769（※2）
固定負債	22,638	17.7	23,040	15.8	+402	
負債合計	**72,120**	**56.4**	**85,323**	**58.5**	**+13,202**	
純資産合計	**55,800**	**43.6**	**60,537**	**41.5**	**+4,736**	親会社株主中間純利益 +5,104 自己株式取得、配当金支払▲3,356 その他有価証券評価差額金+2,577
負債･純資産合計	**127,921**	**100.0**	**145,860**	**100.0**	**+17,939**	

その他指標

	2026/3月末	2026/9月末	増減額	
現金及び預金	5,701	14,116	+8,414	※1
有利子負債	50,237	61,194	+10,957	※2
ネット有利子負債	44,535	47,078	+2,543	
自己資本比率（%）	43.5	41.4	▲2.1	

2027年3月期
連結業績予想及び配当予想

2027年3月期 連結業績予想及び配当予想

- 今回は**最新の連結業績予想及び配当予想を据え置き**（2026年7月22日に上方修正実施）
  → 2027年3月期2Q累計実績は、通期予想に対して営業利益は進捗率52.7%、当期純利益は59.3%と高い進捗率

（単位：百万円）

	2026/3期 実績	2027/3期 2Q実績	2027/3期 最新通期予想 (7/22公表)	2Q実績 対最新通期 予想進捗率	トピック
売上高	65,468	33,983	**71,000**	47.9%	下期は山洋子会社化等により、売上増加となる見通し
営業利益 （のれん償却前営業利益）	9,573 (10,750)	5,265 (5,834)	**10,000** **(11,100)**	52.7% (52.6%)	各社堅調に推移
経常利益	9,944	5,842	**10,400**	56.2%	
親会社株主当期純利益	6,716	5,104	**8,600**	59.3%	MMI投資有価証券売却益等
1株当たり配当額（円）	64円		**130円**		

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値とは異なる結果になる可能性があります。今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示する予定です。

※ 当社は、2025年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。上記配当額は分割後の株式数を基準としております。

中期経営計画2030に向けた取り組み状況

中期経営計画2030に向けた取り組み状況

成長戦略	進捗（2027年3月期2Q時点）
①「ニッチ・安定・わかりやすい」の投資方針を軸としたM＆Aによる連続的成長	今期累計100件超のM&A案件を検討。 **山洋・コウナンを成約し、確度の高い案件も複数進行中。**
②上場株式投資による収益源の多角化	2024年8月設立から2026年9月末までの**IRRは56%を実現。** （含み益込み、税引前） 配当収入および売却益を着実に積み上げ。 今後の中計期間中も**継続的な売却益を計上できる見込み。**
③グループ会社による着実な収益拡大	CST、三生電子、S&Aは**好調な半導体市況等を背景に**来期分も含めた受注残を積み上げており、**当面の間、好業績を見込む。**その他グループ会社も外部環境に左右されることなく底堅く推移し、**グループ全体で着実な収益拡大を実現。**

3つの成長戦略により安定的な収益基盤をさらに拡大

130円以上の累進配当を着実に継続し、上記収益基盤により更なる株主還元を目指す！

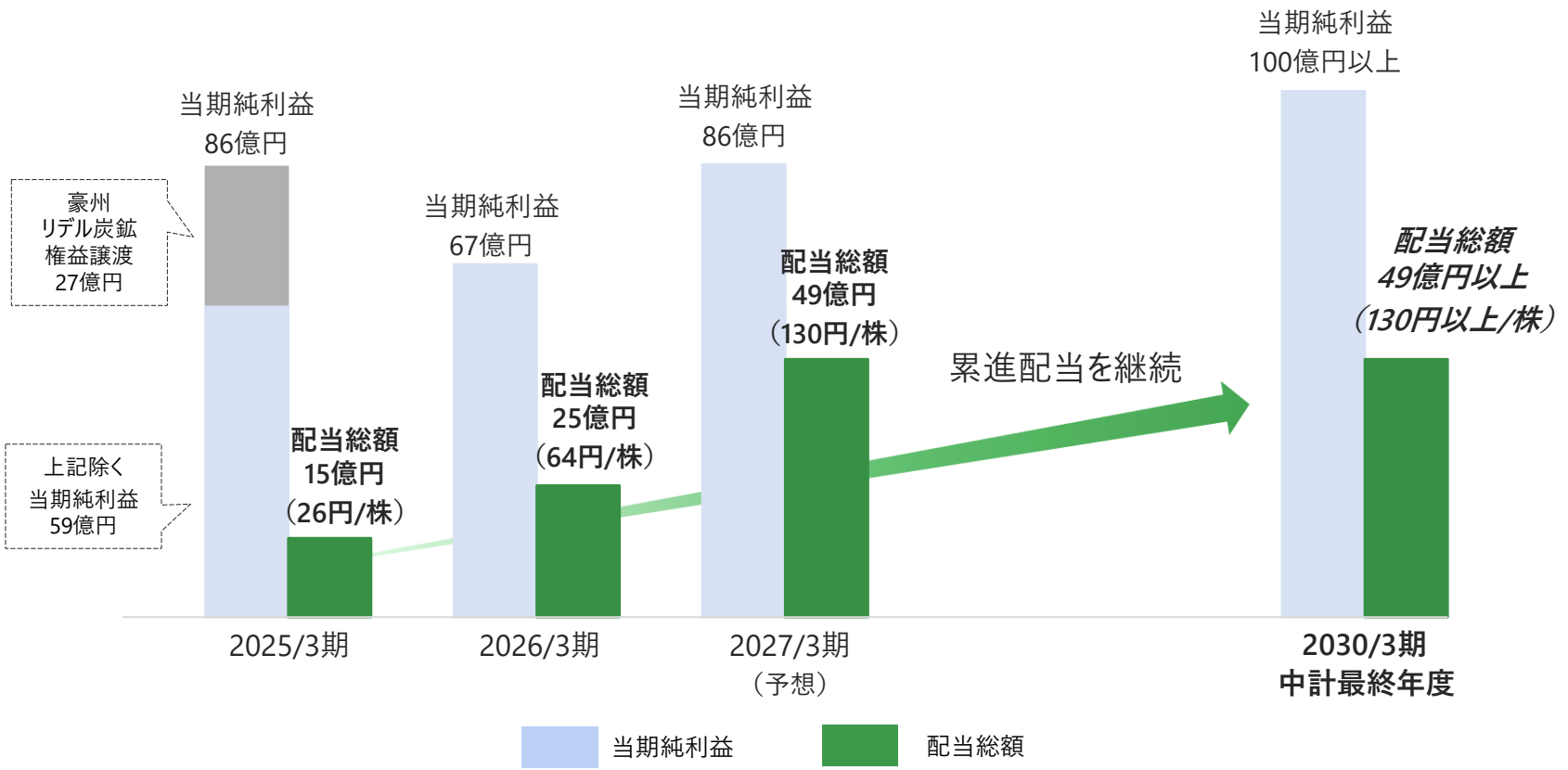
2026年7月には大幅増配予想を発表し、株価を意識した経営により「TOPIX」構成銘柄にも継続採用※

※2026年10月7日に株式会社JPX総研が公表した「TOPIX 初回定期入替における選定結果（2026年10月30日実施）及び構成銘柄一覧」にて当社株式が継続採用

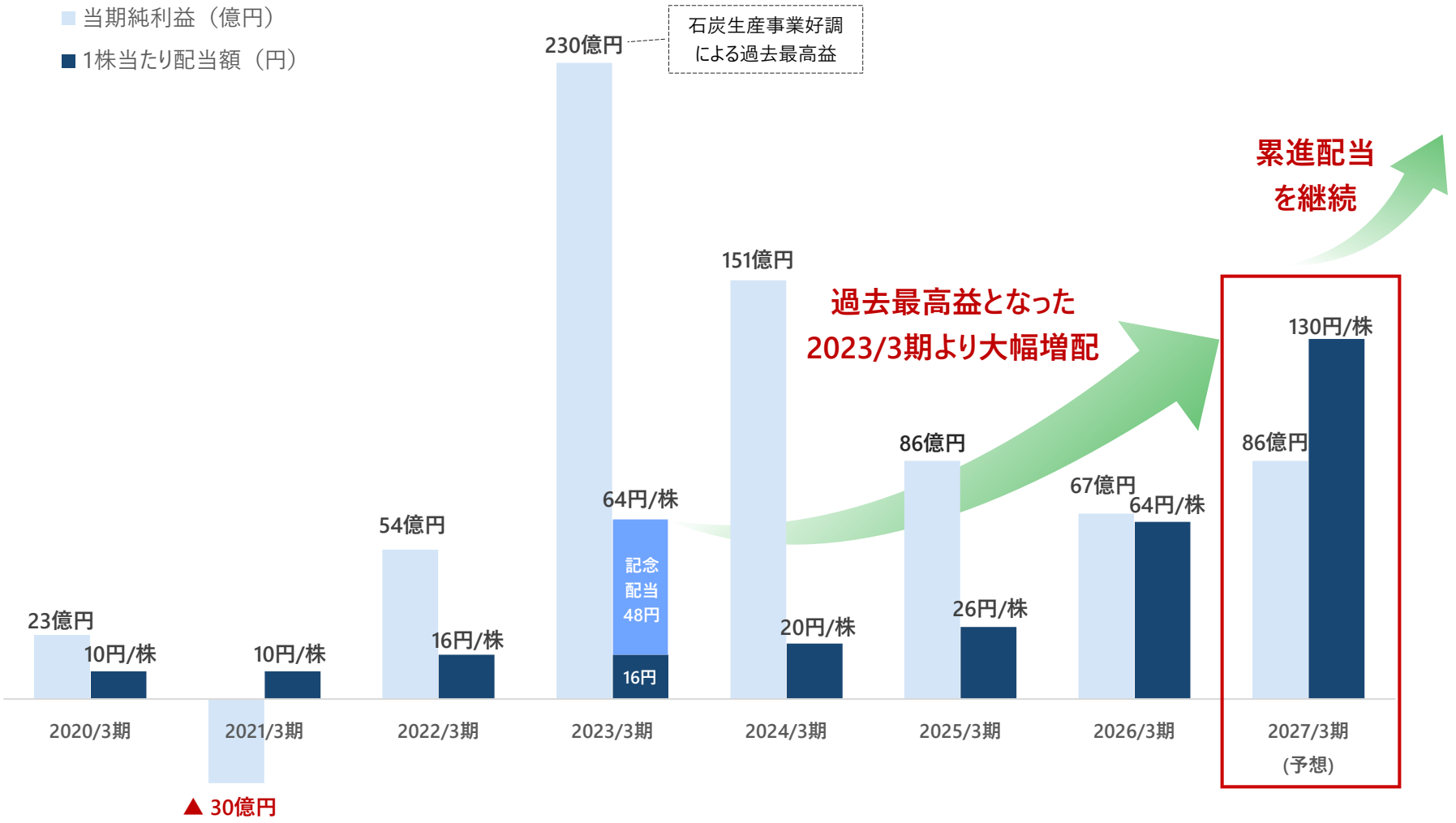
最新の業績予想に基づく株主還元の水準

株主還元方針

「累進配当」を基本方針とし、M&A等による利益成長を通じて、
1株当たり年間配当額の持続的な向上を目指す



過去からの配当推移



※ 2025年10月に普通株式１株につき５株の割合で株式分割を実施。上記1株当たり配当額は全て分割後の株式数にて記載。

直近のトピック

グループ従業員持株会*の奨励金引き上げ

*当社および国内の連結子会社等の従業員が対象

目的

主にグループ従業員における下記事項の実現を図ること。

- **企業価値向上および株価上昇等への意識の浸透・強化による株主との価値共有促進**
- 中長期的な財産形成

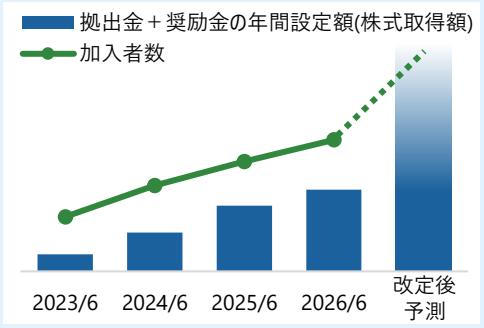
内容

奨励金付与率の引き上げ（2027年３月給与拠出分より適用）

	改定前	**改定後**
奨励金付与率	10%	**30%**
奨励金額	1口1,000円につき100円	**1口1,000円につき300円**

加入者数の増加 × **1人あたり拠出金額の増加** ＝ **持株会の更なる活性化**（市場からの取得株式数の増加）

- ✓ 奨励金引き上げによる動機付け
- ✓ 社内IR強化による経営戦略・中期経営計画・株主還元等への理解促進
- ✓ M&Aによる連結従業員数の増加
- ✓ 処遇向上による拠出余力の拡大



参考資料

M&Aによる新規事業の紹介①

株式会社山洋（https://www.sa-n-yo.co.jp/）

概要

- 2026年8月21日 株式取得
- 創業1967年。綿棒分野において50年以上にわたり技術・品質を磨き続けてきた国内有数のメーカーであり、一般用綿棒については**国内トップクラスのシェア**を誇る
- 工業用・医療用などの高付加価値分野にも製品を展開。**工業用綿棒は「HUBY」ブランドとして半導体等の製造過程で世界各国で使用**されている。
- 当社がこれまでのM＆Aを通じて蓄積してきた製造業におけるコスト管理や生産性改善等のノウハウと、山洋の**高い技術力・品質力・ブランド力**を組み合わせ、さらなる成長を目指す。

製品

①一般用

使う人のこだわりに応える
多彩な綿棒を展開



山洋 こだわり綿棒

②工業用

精密機械の製造工程に
おいて使用



工業用綿棒HUBY

③医療用

医療機関等での検体採取
に使用



HUBY-COTIX
検体採取用綿棒

M&Aによる新規事業の紹介②

株式会社コウナン

概要

- 2026年8月28日 株式取得
- 当社グループ会社の**MOS株式会社と同じ感熱レジロールの加工・販売分野**で主に事業を展開

名　称	株式会社コウナン
創　業	1988年12月
所在地	大阪府門真市脇田町32番22号
売上高	2,594百万円（2025年7月期）

レジロール



本株式譲渡によるシナジー

- コウナンは西日本、MOSは東日本に生産拠点を有しており、両社の地理的優位性を活かすことで、全国の顧客に対する機動的かつ効率的な対応が可能
- 製造ノウハウの共有などのシナジーにより、グループ全体の競争力強化および事業基盤の拡大
- 上記により、**業界No.1の地位を更に確固たるものとする**

<ご案内>

〇2027年3月期第2四半期決算説明会

日時：2026年11月17日（火）15:30～16:30（予定）

方法：オンライン（ブイキューブセミナー）による開催

〇機関投資家向けスモールミーティング

日時：11月24日（火） 13:30～14:30（1回目）

11月27日（金） 11:00～12:00（2回目）

方法：オンライン（Zoom）による開催

詳細はこちら：2027年3月期第2四半期決算説明会及びスモールミーティングのお知らせ

〇フィスコ社による企業調査レポート

〇シェアードリサーチ社によるリサーチレポート

本資料の将来の業績に関わる記述等については、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、変化する可能性があることにご留意下さい。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行なってください。また本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いません。